

2026年度 入学試験の日程一覧

入試区分	出願締切	試験日	合格発表日	
学校推薦型選抜	系列校推薦	2期 2月12日(木)	2月19日(木)	2月26日(木)
総合型選抜	一般文化スポーツ資格 [※] 探究(教育学部は実施しません)	4期 1月28日(水)	2月6日(金)	2月13日(金)
		5期 3月4日(水)	3月11日(水)	3月13日(金)
一般選抜	2教科方式外部試験利用方式 [※]	1期 1月22日(木)	2月2日(月)	2月9日(月)
		2期 1月22日(木)	2月3日(火)	2月9日(月)
		3期 2月12日(木)	2月20日(金)	2月26日(木)
大学入学共通テスト利用選抜	スタンダード方式外部試験利用方式 [※]	1期 1月22日(木)	本学での個別学力試験は実施しません。	2月13日(金)
		2期 2月16日(月)		2月26日(木)
		3期 3月9日(月)		3月16日(月)

入学試験要項はこちら

入試日程や選抜方法、出願書類などの詳しい情報を掲載しています。



入試対策・過去問題ははこちら

入試対策動画、総合型選抜や一般選抜の過去問題をホームページで公開中です。



※本学が指定する資格を取得している場合は、級数やスコアに応じて「みなし得点」に換算して評価します。対象となる学部や資格等については、「2026 入学試験要項」をご確認ください。

2025冬のオープンキャンパス

来場型

12/26 Fri
14:30-17:00

プログラム紹介

- 学部・学科紹介
- 模擬授業
- 学生企画
- キャンパスツアー
- 学び・入試相談 などを予定



参加予約はこちら



敬愛大学の「現在進行形」を届ける広報誌『ING』

Vol. 23

WINTER 2025

ING



【特集1】
教員採用試験 結果速報

【特集2】
教育学部の紹介
— 多彩な授業から生まれる豊かな体験

【特集3】
情報マネジメント学部
— 将来につながる学びが見える

敬愛大学

教育の敬愛
創立100周年

<https://www.u-keiai.ac.jp/>

〒263-8588 千葉市稲毛区穴川1-5-21

代表：TEL.043-251-6363 FAX.043-251-6407

アドミッションセンター：TEL.043-284-2486 FAX.043-284-2558

(入試・オープンキャンパス問い合わせ) ☎ 0120-878-070 [フリーダイヤル]

X (旧Twitter) ID
@u_keiai



Instagram ID
@keiai_university



LINE



YouTube



教員採用試験 結果速報

令和7年度実施の教員採用試験二次選考の結果が発表されました。敬愛大学からは、小学校で53名、中学校・高等学校の英語科で5名^{※1}、社会科で2名、合計60名が二次選考に合格しました。特に、小学校の二次選考合格率は、2年連続で90%を超える高い値となりました。学生一人ひとりが日々の学びを大切に、最後まで粘り強く努力を重ねてきた結果です。指導にあたった教員もきめ細やかな支援^{※2}を行い、学生の力を最大限に引き出しました。学生と教員が一丸となって挑んだことが、高い合格率につながりました。

※1 私立学校の合格者1名を含みます。

※2 教職課程の授業に加えて、教職センターを設置し、小・中・高の免許課程に応じた幅広いサポートを行っています。教育経験の豊富な指導教員が、筆記や面接、模擬授業等の教員採用試験対策を手厚く指導します。

小学校教員の合格率は、一次選考 100%、二次選考 93.0% を達成！

校種	現役生(4年生)の結果			二次選考		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
小学校	58	58	100%	57	53	93.0%
中学校・高等学校(英語)	7	7	100%	6	5(1)	83.3%
中学校・高等学校(社会)	4	3	75%	3	2	66.7%

人数のカウントは、実人数です。複数の自治体を受験している場合は、1名と数えます。小学校の二次選考合格者数の内訳は、千葉県・千葉市が52名、茨城県が1名です。中学校・高等学校(英語)と中学校・高等学校(社会)の公立学校合格者は、どちらも千葉県・千葉市です。中学校・高等学校(英語)の()内は、私立学校の合格者です。

Interview 01

教員採用試験合格者体験談

社会科の魅力にひかれて教員に



中高社会合格！

T. K.さん 経済学部 経済学科 4年
千葉県立若松高等学校 出身

社会科は、私たちの身近な出来事と深く結びつき、学べば学ぶほど楽しさが増す教科です。中学時代にその魅力を教えてくれた先生にあとがれ、社会科教員を目指しました。一次試験対策には、参考書の書き取りや音読を反復する正攻法で取り組みました。また、長い道での迷わぬよう、小さな目標を設定して確実に達成するようにしました。指導をしていただいた先生からは、学習方法だけでなく教員になるための自覚やモチベーションの面でもサポートを受け、学び続ける姿勢の大切さを教わりました。一次試験は手ごたえがあり、二次試験の模擬授業と面接でも自分の強みを発揮できました。合格を知ったときは、喜びと同時に教員としての責任を感じ、気持ちを新たにしました。授業や行事、生活などの様々な面で、生徒の成長を後押しできる教員を目指します。

英語を学び、教える夢を実現



中高英語合格！

H. S.さん 国際学部 国際学科 4年
千葉県立鏡子商業高等学校 出身

大学入学時から英語教員を志望していました。家族の影響で公務員に関心があり、子どもが好きだったこともあり、教員という仕事を選びました。英語は仕事だけでなく、生活や趣味の幅も広げてくれる魅力があります。採用試験に向けては、夏休みに模擬授業やチームティーチングなどの二次試験対策を集中して行い、先生方からの丁寧なフィードバックで改善を重ねました。1・2年次の「College English」で英語を話すことに慣れ、人前で自信を持てるようになったことも大きな支えでした。今は、英語力をさらに高め、生徒の進路を支えられる教員を目指しています。学校生活が思い出深いものになるように、授業や生徒たちとの関わりを大切にしていきたいです。後輩の皆さんには、学業以外の経験も大事にしながら、目標に向けて挑戦し続けてほしいと思います。

一人ひとりの成長を見守る先生に

F. H.さん 教育学部 こども教育学科 4年
船橋市立船橋高等学校 出身

子どもたちは、一人ひとり大きな可能性を持っています。その可能性を広げるのに、先生の影響は大きいと思います。そう感じさせてくれたのは、小学校6年生のときの担任の先生でした。楽しい学校生活を過ごさせてくれた、あの熱い先生のようになりたいと思い、小学校教員を目指しました。教育学部に入学した時からこの目標は変わらず、ずっと取り組んできました。授業ではグループワークが多く、一緒に取り組む中で自然と仲の良い友人ができました。特に「1・2年生合同ゼミ」[※]では、異学年でグループを作り、創作劇やSDGsの課題に取り組んだことが思い出に残っています。

教員採用試験では、大学推薦をいただいたことで、二次選考に集中して取り組むことができました。夏休みには、仲間と集まって個人面接や模擬授業を何度も繰り返しました。「皆がんばっているんだから、私もやらなければ」と、毎日大学に通い、励まし合いながら準備を進めました。支え合う仲間がいなければ、自信をもって本番に臨むことはできなかったと思います。これからは、あとがれの先生のように、一人ひとりの成長を支えてあげられるようになりたいです。教員を目指す皆さんには、人との出会いを大切にしてほしいです。お互いに切磋琢磨し、悩んでいるときに側にいてくれる仲間の存在が、次の一歩を後押ししてくれます。

※「1・2年生合同ゼミ」とは、1・2年次の学生が教育の基礎を学びながら交流し、主体的に学びを深める教育学部独自のゼミ活動です。

小学校合格！



Interview 03

教員採用試験合格者体験談

支えてくれる人への感謝を忘れずに

H. K.さん 教育学部 こども教育学科 4年
八千代松陰高等学校 出身

小学校の担任の先生が明るい人柄で、クラスをまとめる姿にあこがれ、学校の先生になりたいと思いました。小学校は子どもたちと長く関わり、成長をゆっくりと見守っていきけるので魅力を感じました。教育学部では、模擬授業や教育実習で多くのことを学びました。例えば、図画工作の指導法では、結果だけでなく過程にも目を向けて声をかける大切さ気づかされ、他の教科にも活かせる指導の視点を学びました。教育実習では、現場の先生から「子どもたちを待つ時間」の価値を教えられました。考える時間があまり確保できていなかったと気づき、時間配分の工夫に繋がりました。

教員採用試験に向けては、二次選考の個人面接と模擬授業の練習を繰り返し、「ここまでやったのだから大丈夫」と思えるまで、友人たちと改善を重ねました。合格を知ったときは、安心して胸がいっぱいになりました。根気よく指導して下さった先生方、合格を信じてくれた家族に心から感謝しています。教員は、人との繋がりが大切な職業だと思います。自分を支えてくれている人を忘れず、子どもたちが楽しく学べる環境をつくり、素直に感謝の気持ちを伝える姿を示していきたいです。これから教員を目指す高校生の方には、頼れる友人や先生と多くの関係を築いてほしいと思います。そうした関係が力になり、夢の実現に繋がります。

教育学部の紹介－多彩な授業から生まれる豊かな体験

子どもたちの未来を育てる教員を目指して。敬愛大学教育学部では、体験を通して学び、考え、表現する授業が数多く展開されています。ここでは、教室を超えて広がる「学びの現場」を紹介します。

教育学部12の特徴

教育学部では、**小学校の教員免許**や**中学校・高等学校の社会、英語、地理歴史、公民の教員免許**を取得できます*。それぞれの進路の実現に向けた教育体系を整備し、12の特徴として明確化してきました。各授業科目は、これらの特徴と密接に関連づけられており、教員としての力を着実に高めていきます。

*2026年度には、中学校の国語と保健体育の教員免許が取得できる教職課程を申請中です。

<p>新たな資格が取得可能</p> <p>幼稚園教諭2種免許状や学校図書館司書教諭(申請予定)、キャンパインストラクター、准学校心理士など。</p>	<p>最新の研究や教育課題に触れる課題探究科目</p> <p>テーマ設定から調査、考察、成果発表に至るプロセスを実践。言語文化、社会科学、情報、こども理解から選択。</p>	<p>体験的に学べる授業</p> <p>教室を飛び出して地域に向かう野外活動、社会科巡検、理科臨地学習、文学探訪などを新設。</p>	<p>「こども学」を拡充</p> <p>非認知能力^{※1}の育成などの学校現場の課題に対して、指導教員の実践研究や経験を活かしてアプローチ。</p>
<p>「小学校英語教育講座プログラム」</p> <p>小学校英語教育で活躍できる力を養うため、学校現場で高評価の「大学独自修了認定」がさらに充実。</p>	<p>現代的教育課題に対応</p> <p>ICT機器の活用やいじめ問題、不登校対策などを扱う授業を豊富に展開。模擬授業専用の教室も新設。</p>	<p>教育実習^{※2}と学校ボランティア活動</p> <p>4年間を通じた体系的な実習、近隣の自治体・学校などと連携したボランティア活動を豊富に展開。</p>	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p>グループワークやディスカッションなどのアクティブな活動を日常的に取り入れ、学習指導案作成や模擬授業が充実。</p>
<p>ゼミを通じた学びの深化</p> <p>1・2年次は異学年合同ゼミでポスター発表や道徳教材の表現劇を創作。3・4年次ゼミは卒業研究で各自のテーマを追究。</p>	<p>地域の特性を活かした教育</p> <p>ちばの自然・環境や地理歴史を広く知り、教材開発へ結びつけていく授業や、教育行政について深く学ぶ授業を新設。</p>	<p>4年間一貫のサポート体制</p> <p>教職センターによる4年間一貫のサポート体制。テキスト代のみの実費負担で、対策講座や模擬試験に参加可能。</p>	<p>理想的な修学環境</p> <p>教職免許状の取得率、教員採用試験の受験率は9割を超え、教員を目指す学生にとって理想的な修学環境。</p>

※1 学力検査では測定できない能力。やる気・意欲、忍耐力、協調性、自制心など人の心や人間関係を築く社会性に関係する力。

※2 1・2年次から学校ボランティアに参加し、小学校と大学との間を行き来して学ぶ教育実習のシステム。

体験的に学ぶⅠ(野外実習)



小宮山伴与志 教授

この授業から学べること

新たな資格が取得可能 | 体験的に学べる授業 | アクティブ・ラーニング

自然の中での様々な体験を通じて、教員として必要な実践力を身につけることを目的としています。小学校では、宿泊訓練や林間学校など、子どもたちが自然の中で学ぶ機会があります。そうした場面では、安全に配慮しながら子どもたちの成長を支援する力が求められます。テント設営や火おこし、野外炊飯といった技術はもちろん、何よりも重要な「安全管理」と「リスクマネジメント」を学びます。キャンプを通して協調性やリーダーシップを育む方法を実践的に学ぶことも可能です。子どもたちは自然の中での体験を通して、環境を大切にすることや、仲間と協力して問題を解決する力を育みます。その手助けができるよう、一緒に学んでみませんか。



この授業を履修し、試験を受験することで「キャンパインストラクター」の資格を取得することができます。千葉県・千葉市の小学校では野外活動を取り入れている学校が多く、教員採用試験でもこの資格は有利に働きます。

体験的に学ぶⅡ(社会科ちば巡検)



佐藤 孔美 教授

この授業から学べること

体験的に学べる授業 | アクティブ・ラーニング | 地域の特性を活かした教育

情報があふれる時代だからこそ、本やテレビ、ネットの知識だけでなく、自分の目で見て、耳で聞き、手で触れて学ぶことを大切にします。稲毛浅間神社や加曽利貝塚、千葉城などを訪れ、専門家の話を聞きながら地域の歴史や文化を体感します。感じたことをレポートにまとめ、グループで共有し、社会科の教材づくりや授業づくりの力を養います。五感を通して学びの原点を見つめ、子どもたちに学ぶ喜びを伝える力を身につけます。

小学校理科指導法



小林 輝明 教授

この授業から学べること

体験的に学べる授業 | 「こども学」を拡充 | アクティブ・ラーニング

小学校理科で扱う観察や実験の方法、教材研究、指導技術を体系的に学ぶ授業です。グループで課題を設定し、観察や実験、議論を通して理解を深めるアクティブ・ラーニング形式[※]で行われます。安全な器具操作を身につけながら、生命、地球、エネルギーなどの教材を分析します。観察や実験は、単なる知識の伝達ではなく、好奇心を引き出す学びの起点です。子どもたちとともに「なぜ？」を探究できる理科教師になることを目指します。

※他の教科指導法の授業も、すべてアクティブ・ラーニングの手法をベースにしています。

小学校図画工作



久保田 美和 准教授

この授業から学べること

体験的に学べる授業 | 「こども学」を拡充 | アクティブ・ラーニング

「造形あそび」では、イメージを形にすることの喜び、工夫することの楽しさ、他者と協働することの温かさを体験し、授業設計の方法や授業改善の視点を学びます。図画工作は、教員自身が体験したことがないと指導が難しい教科です。体験を通して、創り出す喜びや制作する児童の気持ちを感じ取ることが、この授業の目的です。ここで感じたことを、子どもたちにどのように伝えていくか。これが、授業作りの第一歩となります。

小学校英語指導法



佐藤 佳子 准教授

この授業から学べること

体験的に学べる授業 | 小学校英語教育講座・プログラム | アクティブ・ラーニング

子どもたちが英語を楽しく学べる授業づくりを体験的に学びます。歌や会話、ゲームなどで発話を引き出す工夫を考え、模擬授業にも挑戦します。学習指導案の作成やALT[※]とのチーム・ティーチングなど、実際の授業を想定した活動を行います。英語が得意でなくても大丈夫。子どもと一緒に学びながら成長できる、「伝わる英語教育」の基礎を身につけます。将来の教室を思い描きながら、指導の楽しさと奥深さを体感できます。

※ALT(Assistant Language Teacher, 外国語指導助手)とは、主に英語の授業を日本人教師と一緒に英語を母語とする指導者のことです。

教育とICT活用



三宅 健次 教授

この授業から学べること

体験的に学べる授業 | 現代的教育課題に対応 | アクティブ・ラーニング

パソコンやタブレットを活用した新しい授業づくりに挑戦します。生成AIやSNSトラブルなど、現代の子どもたちが直面するテーマも取り上げ、情報モラルや情報リテラシーを考えます。授業では実際に教材を作成し、プログラミングやプレゼン発表にも挑戦します。教室でICTを効果的に活用し、子どもたちの学びを支える力を実践的に身につけます。教育の現場で即戦力となるICT活用のスキルと応用力を磨きます。

道徳教育指導法



土田 雄一 教授

この授業から学べること

「こども学」を拡充 | 現代的教育課題に対応 | アクティブ・ラーニング

道徳科は、「人としてどう生きるか」を子どもたちと一緒に考える授業です。正しい答えが1つとは限らず、答えのない問いもあります。「命とは?」「友だちと仲良くするには?」—そんな深いテーマに子どもたち自身が向き合い、悩み、考えます。教師が正解を教えるのではなく、子どもたちが価値観について自分なりの答えを見つけていく過程を支援する—そこから生まれる新たな気づきこそが道徳科で得られる重要な学びです。

情報マネジメント学部 —将来につながる学びが見える

Faculty of INFORMATION MANAGEMENT

就職に役立つ資格取得を全力でバックアップします。特に業界標準のICTスキルを証明する情報系資格の取得では、正規の授業や課外での個別指導などを通じて強力にサポートします。

就職活動でアピールできる情報系資格の取得を手厚くサポート

「情報」「経営」「地域・観光」の3分野を融合した文理横断型の専門教育

5つの
強み

文部科学省認定プログラムに基づく、実用性の高いAI・データサイエンス教育

文部科学省が推進する数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度において、千葉県内で初めて「リテラシーレベル」と「応用基礎レベル」の2つの認定を受けた実績のあるプログラムで学べます。

現代社会で最も必要とされる「情報」と「経営」(マネジメント)、「地域・観光」を同時に学ぶことができる学部です。AI、データサイエンス、ICTなどの知識や技能を、創造的・実践的に活用できる力を身につけます。

「情報・データサイエンス系」「地域・観光情報マネジメント系」「経営・マーケティング系」の中から、得意分野を深めることができます。実践的分析やゼミでの学問的探究を通じて専門性を深めます。

社会で必要とされる「4つの能力」の養成

社会人として活躍するために必須となる4つの能力である「課題解決能力」「データ分析能力」「イノベーション能力」「コミュニケーション能力」を高める学びを重視します。

得意分野を専門的に伸ばせる3つの系統別学修モデル

Message 教員からのメッセージ



#01

南陽 教授

専門分野: 情報ネットワーク工学、情報知識工学

AIとビッグデータを使いこなす

本を丸暗記する時代は終わりました。これからは、生成AIを使いこなす力が求められます。AIはすでに多くの分野で人間を超える知能を持っていますが、私たちはその力を“使う側”になれるのです。本学部の「ビッグデータマネジメント」の授業では、AIやデータを自在に操り、膨大な情報の中から本当に価値ある知見を見出す力を育てます。GeminiやNotebookLMなどをはじめ、最先端の生成AIツールも使いこなします。さらに、自分の興味あるテーマでビッグデータの収集・分析・可視化・発信に取り組む探究プロジェクトにも挑戦できます。こうした体験を通して、AIとビッグデータを使いこなす力が自然と身につきます。記憶やテストの点数よりも大切なのは、好奇心と探究心。新しい道具を使って世界を変えたい—そんな仲間と一緒に学びましょう。



情報マネジメント学部では、「情報・データサイエンス」「地域・観光情報マネジメント」「経営・マーケティング」の3つの分野にわたって、社会課題に理論と実践の両面から取り組みます。各分野に専門性をもつ教員が、学生の学びを支えています。ここでは、本学部の強みと教育・研究の現場からのメッセージをお届けします。



#02

津々見 崇 教授

専門分野: 観光計画、国土・都市計画、観光まちづくり

地域を見て、考え、動かす—観光まちづくりの探究

専門は観光まちづくりで、「地域観光論」や「観光マーケティング」、「千葉の観光研究」等の科目を担当しています。世界中を多くの観光客が訪れる現代社会において、“観光と地域のより良い関係づくり”に貢献できる人材を育てたいと考えており、授業では、地域の姿を現場で観察し、データで確かめ、情報技術を活用して考える力を身につけられるよう工夫しています。用意された答えのない課題に向き合い、自ら問いを立て、必要なデータを自分で集めて分析する。その過程で、地域の人々や出来事と出会い、それらを真剣に見つめ考えることで、世界の見え方が少しずつ変わっていきます。世界に興味を持ち、知りたいという気持ちを行動に変えられる学生さんたちとともに、持続可能性や観光DXなどの現代的テーマも踏まえながら、新しい観光まちづくりを探究したいと思います。



#04

丁 明 准教授

専門分野: 流通論、消費者行動論

「売れる理由」を科学するマーケティングを学ぼう

世の中には大ヒット商品や話題のサービスがあふれる一方で、思ったように売れず、選ばれないものも多く存在します。コンビニでの買い物、SNSで話題のブランド、サブスクなどの新しい仕組みには、必ず選ばれる理由と選ばれない理由が隠れています。マーケティングとは、消費者が「なぜ・どこで・いくらで・どんな商品やサービスを買うのか」を探究する学問です。情報マネジメント学部では、実際のビジネスケースを題材に、データサイエンスの手法を用いて購買データやSNSデータを活用しながらマーケティングを学びます。商品やサービスがどう生まれ、どう広がっていくのか、その仕組みを読み解く力を養います。理論をしっかりと学びつつ、チームや組織を動かす力、そして自ら「新しいマーケット」や「新しい価値」を創り出す力を身につけていきましょう。



#03

白川 慧一 准教授

専門分野: 都市計画、不動産経済学

新たな仕組みを創造できる人間になろう

AI、ビッグデータの活用、デジタル化といった近年の変化によって、従来であれば専門的な技術がなければ出来なかったことを誰でも簡単にできるようになる社会が実現しつつあります。出来るが増えた今だからこそ、新たな仕組みを創造する発想が大事です。これまでなかった発想を生み出すためには、世の中に対する深い理解と洞察が必要になります。学生の皆さんには、AI等のWebサービス、統計データ分析ソフト、Web上の様々な地理情報システム(GIS)など、新旧様々なツールをみずからの意思で活用できる能力を身につけるとともに、社会を分析する様々な学問の考え方やアプローチを学ぶことを通じて、今までなかったものの見方ができる人間、よりワクワクする面白いことが考えられる人間になることを期待しています。



#05

渡邊 徹 准教授

専門分野: 交通経済学、物流政策、観光政策

社会を理解し、賢く生きる術を学ぶ

1年生を対象とする「経済学概論」の授業を担当しています。「何だか難しそうなお授業だな」と感じるかもしれません。しかし、GDPや消費者物価指数といった、新聞やテレビのニュースなどでときどき見聞きするデータに注目することで、日本経済の成長ぶりや、私たちが日常購入するモノやサービスの価格の変化が見えてくるとともに、メディアの報道の意味もよく理解できるようになります。また、経済学を学ぶことにより、たとえばモノやサービスの価格が高くなるインフレでは、財布の中のお金をそのままにしておくのが得なのか、銀行などに預けるのが得なのか、あるいは株式などに投資するのが得のかも判断できるようになります。経済学を学ぶことは、私たちが生活している社会について理解し、賢く生きる術を学ぶことなのです。さあ、一緒に経済学の扉を開けてみませんか？

